

中村延子

NOBUKO NAKAMURA

区議会レポート

vol.39

令和6年1月号

発行/立憲・国民・ネット・無所属議員団

中野区中野4-8-1
Phone: 03-3228-8876
Fax: 03-3389-8718

編集/中村延子事務所
中野区弥生町4-32-6-303
Phone: 080-6533-9450
email: n@nakamuranobuko.jp

www.nakamuranobuko.jp



中村延子のプロフィール
1981年 9月2日生まれ 東京都中野区出身

おとめ座/B型/酉年
趣味: 音楽、料理、旅行、読書

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジル(社)CISVの11歳キャンプに1か月参加し、9か国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用して宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクインに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。

2004年 北京大学医学部へ短期留学。

2005年 民間企業に就職

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に向向。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。後期は、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。

2019年 中野区議会議員 3期目の当選

2,603票をいただき3期目の当選。前期は子ども文教委員会、中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会に所属。現在は総務委員会、危機管理・感染症対策調査特別委員会副委員長を務める。

2020年1月 第一子を出産

2023年 中野区議会議員 4期目の当選 (2057票)



兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



メイデーでのスピーチ



北京大学に短期留学



2011年4月中野区議選



立憲・国民・ネット・無所属議員団

令和6年度予算に向けた要望を行いました

10月23日、立憲・国民・ネット・無所属議員団として、令和6年度予算に向けた要望書を区長および教育長宛に提出しました。区民の皆様や区内団体の方々からいただいた声をもとにまとめさせていただきました。今後も引き続き声を届けてまいります。



令和6年度予算で検討中の主な取り組み

第4回定例会の各常任委員会に、来年度予算で検討中の主な取組が示されました。主な内容は以下になります。

▶ がん患者へのアビランスクエア支援事業

がん治療に伴う脱毛や乳房の切除によって地域生活に支障があり、ウィッグや胸部補正具を必要とする患者へ購入費等の助成を行う。

▶ 特定不妊治療費助成(先進医療)

妊娠を望む方を支援するため、東京都特定不妊治療費助成(先進医療)を受けた区民に対し、医療費の一部を助成する。

▶ 妊娠・出産・子育てでトータルケア事業の充実

ファーストバースデーサポート事業の拡充を図るとともに、父親向け講座及び低出生体重児の親向け交流会を新たに実施する等、妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援を行う。また、日本語のコミュニケーションが難しい方に対する支援として、乳幼児健診・個別訪問・発達相談等の実施にあたり、母国語の会話が可能な母子保健通訳を導入する。

▶ 中野区子どもの権利に関する条例の推進

子どもの権利の普及啓発等をテーマとした子ども向けワークショップを実施する。

▶ ひとり親家庭住宅支援

区内在住のひとり親家庭(離婚成立前の実質ひとり親家庭を含む)が区内転居する場合に、初期費用等を助成する。

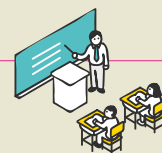


▶ 児童館の機能拡充

児童館運営・整備推進計画(案)に基づき、児童館・ふれあいの家を基幹型・乳幼児機能強化型・中高生機能強化型の3類型への移行に向け、類型毎の機能強化を推進するための取組を行う。

▶ 子どもの意見を反映させた教育活動

子どもたちの意見、考え、思いを表明する取組を行い、各学校の特色ある教育活動を推進する。



▶ 一時保育、病児・病後児保育等の改善

一時保育事業の拡大を図るとともに、ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)の対象を、病児・病後児の場合については、保育園等に在籍している児童にも拡大する。

▶ 常設プレーパーク設置に向けた試行実施

江古田の森公園内の常設プレーパーク設置に向けて、子どもや保護者、地域の意見・ニーズを捉え、プレーパークの運営や工事内容に反映するため、試行的に事業を実施する。

▶ 高齢者補聴器購入費用助成

加齢に伴う難聴によって、生活に支障が生じている高齢者に対し、補聴器購入にかかる費用の一部を助成する。

▶ ヤングケアラー・ケアラー支援

発見が困難で問題が顕在化しにくいヤングケアラーの支援体制を強化するため、区立小学校・中学校等の生徒への啓発事業等を行う。またLINE等のSNSを活用したオンラインの相談窓口を委託により開設し、様々なケアラーからの相談に応じる体制を構築する。

▶ おくやみ窓口の開設・運営

お亡くなりになられた方の手続きを案内し、ご遺族の方の負担軽減を図るおくやみ窓口を開設する。

▶ 新庁舎における窓口サービスの向上

新庁舎の窓口サービスの向上に向け、全庁共通発券機やフロアマネージャーの導入、またセルフレジの増設や書かない窓口の拡充を図り、4つのない(迷わない、待たない、動かない、書かない)窓口サービスを実現していく。

その他の取組についてはこちら



第3回定例会で一般質問を行いました！

以下の項目について質問を行いました。原稿および答弁は中村延子HPに掲載しております。ぜひ、ご確認ください。

1 中野区実施計画について

3 中野駅周辺まちづくりについて

2 子育て先進区に向けた取組について

4 多文化共生について

① 地域の子ども施設について

② 妊娠・出産・子育てトータルケア事業について

5 感染症対策について

中村延子 HP QR



▼ダイジェスト版▼

児童館について

Q 条例を改正せず「児童館」のままとすることとなったが機能転換する児童館もある。今のままの児童館が残るわけではないということはいじゅうぶんに説明していく必要があるが。

A 意見交換会等を開催し、児童館の機能等について周知を図るとともに、子どもを含む区民から意見を聴取し、子どもの子育て家庭のニーズを捉えたより魅力的な施設となるよう運営に反映していく。

妊産婦歯科健診について

Q 妊娠届出時の母子バッグに案内があるのみであり、かんがるブックやトータルケア事業の一覧にも記載がない。産前産後の口腔ケアの重要性をこれまで以上に広報していく必要があると考えるがどうか。

A 改訂するかんがるブックに記載するとともにLINEでの情報発信などこれまで以上の広報をしていきたい。



中野駅新北口再整備事業について

Q 将来に不確定要素を持つ展望施設やパンケットなどの施設は民間のノウハウで進めるべきであり、事業者提案内容の継承は引き続き求めていくべき。また、事業収支改善の協議により権利床の持ち方にも影響が出ると考えるがどうか。

A 提案内容については実現を求めるとして、事業収支検討等の影響により施設計画の内容が変わる場合であっても、当初提案の機能や考え方の継承は必要。権利床については、必要な機能を整理し、機能の実現に向けて施行予定者と協議する。

多文化共生について

Q 日本語指導派遣は現在80時間までとなっているが、受験が近づいている中学校2・3年生に対しては、より日本語指導を強化する必要があるがどうか。

A 支援を強化する必要があることは認識しており、現在、外国人留学生等の地域人材の活用や大学との連携、ICT活用等を進めているところである。

感染症対策について

Q 経済や社会活動を止めない為にも、今後感染拡大時におけるマスク着用の推奨を中野区でも行っていくべきと考えるが。

A 区としては、国や都などの専門家の意見等を参考に、適切な時期にマスクの着用が効果的な場面の周知も含め、注意喚起を行っていく。

第4回定例会で一般質問を行いました！



1 行政評価について

Q これまで事務事業の終期を決めるべきという事を再三申し上げてきた。内部で新規・拡充事業の終了時期を定めているのであれば、予算審査で議会にも示していくべき。また、その終了時期にあわせて、行政評価制度を活用し、次年度予算へ反映すべきでは。

A 新規・拡充事業については、事業期間と目標達成の時期を見定めて事業計画を立てており、国や都の補助事業期間や制度内容を参考に、終了時期を設定する事がある。予算審査における示し方については、工夫したい。評価・検証を行うことについても検討していく。

2 児童館運営・整備推進計画について

Q 来年度からモデル事業をすすめていく。新たな児童館の運営モデルを確立させていくプロセスが重要と考えるが、現在想定しているモデル事業の実施内容、進め方について伺う。

A モデル事業の実施内容は、基幹型、乳幼児機能強化型児童館に移行する各1館において、福祉的な課題への対応や利用者ニーズを捉えた運営改善、幅広い世代が利用しやすいタイムシェア・ゾーニングの見直しなど諸課題への対応策を検討していく。

Q 基幹型については、民間運営への質を担保していく上での存在意義も重要。また、民間のノウハウを基幹型へ波及させるべく、連携をしていく必要がある。こうした相乗効果も期待できるが、民間移行する際は、地域の理解を得ながら丁寧に進めるべきでは。

A 基幹型の役割として中学校区内の地域連携や子ども施設の巡回・支援を位置づけており、委託館も含め地域連携の促進していく。民間委託にあたり地域に対して丁寧に説明していくとともに移行が円滑に進むよう工夫していく。

3 新庁舎整備について

Q おくやみ窓口は、事前予約する事で必要な手続きをあらかじめ手配できるワンストップサービスを検討していたが、どのような手法で実施する考えか。

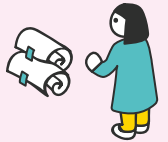
A 事前予約された段階でお亡くなりになった方の情報を確認し、各所管とも連携を取りながら適切な手続きを一括で行う仕組みを検討している。来庁された当日には印字済みの申請書等を用意しておきワンストップ対応を行う事を考えている。

Q 新庁舎3階に設置予定のキッズスペースについて、手続きに来ただけでなく気軽に立ち寄れる空間づくりが必要。どのようなコンセプト、内容で設置され、運営していく考えか伺う。

A 手続きに来ただけでなく来庁中の子育て世代が気軽に立ち寄れる待合スペースとして準備を進めている。親子が立ち寄りやすい温かい雰囲気となるような整備に取り組んでおり、設置・運営にあたっては居心地のよい場所となるよう工夫したい。

Q 中野駅周辺はおむつを扱っている店舗が極端に少ない。新庁舎1階は土日祝日も区民が利用できることから、おむつ自販機の設置を検討すべきと考えるがどうか。

A いただいたご意見を踏まえ多くの乳幼児親子が外出しやすくなるよう設置場所や設置方法について検討していきたい。



4 健康施策について

① がん対策について

Q HPVワクチンのキャッチアップ接種は、来年度が最終年度であり、早急に情報や機会の提供が必要だ。キャッチアップ世代に対して、効果的な接種率向上に向けた取組を実施すべきでは。

A 医師会との連携を図るなど、接種率向上に向け、接種勧奨を進めていく。

Q 20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けていただく事も2次予防、早期発見には必要だが、区の検診受診率は20%を切っており深刻な状況。医療機関の女性医師の有無の公表など、これまで受診していただけていない対象者のハードルを下げる取り組みの実施が必要と考えるがどうか。

A 重要な課題であると認識しており、行動変容を促す受診勧奨など工夫しながら取り組む。医療機関の女性医師の有無の公表については今後関係者と調整しながら検討する。

Q がん治療による外見の変化が、治療や就労への意欲の低下につながることもある。抗がん剤治療などにより髪の毛が抜けてしまう方や、乳がん治療で乳房切除を行う方に対し、中野区でもウィッグや補正下着の購入費の助成を行う必要があると考えるがどうか。

A がん患者に対するウィッグ、胸部補正用具等アピアランスケア事業を令和6年度から開始できるよう検討を進めている。

② 性教育について

Q 昨年度から保護者向けの性教育をテーマにした講演会も行っている。オンライン開催で、アーカイブ配信をしたこともあり、130名の方が登録し視聴された。来年度以降も性教育をテーマとした講演会を継続して実施していくべきと考えるがどうか。

A 改定中の男女共同参画基本計画には「性に関する知識の普及啓発のための取組」を盛り込むことを考えている。広く区民を対象とし、性教育をテーマとした講演会の実施についても検討したい。

③ 不妊治療に対する支援について

Q 不妊治療が保険適用となり、窓口での支払いが少額になった。新規参入者が大幅に増え、少子化対策にもつながると考える。一方、保険適用外治療の中には、これまでの助成制度の仕組みでは対象とされていたものもある。中野区でも、不妊治療保険適用外の先進医療に対する支援を新たに始めるべきと考えるがどうか。

A 保険適用外の先進医療への費用助成は重要なことだと考えており、現在事業実施について検討している。

その他の活動



インターン生と国会見学へ



厚生委員会の視察で北九州市へ



WOMAN SHIFT勉強会に参加